



編集・発行 北海道立生涯学習推進センター
 〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでの2・7 8階
 E-mail kensyu@manabi.pref.hokkaido.jp

電話 011-204-5781 FAX 011-261-7431
 ホームページアドレス <https://manabi.pref.hokkaido.jp/>

◆◆平成28年度生涯学習推進専門講座終了◆◆

＜研修テーマ＞ 地域住民の合意形成と絆の構築
 ～地方創生の時代に求められるコーディネーターの役割～

平成28年11月10日（木）～12日（金）に、道民活動センタービル（かでの2・7）を会場に、「平成28年度生涯学習推進専門講座」を開催しました。道内の市町村教育委員会担当職員、社会教育関連施設職員、生涯学習・社会教育関係団体職員、生涯学習の実践者など41名が参加し、地域で活動する生涯学習・社会教育の指導者に求められるコーディネートに関わる専門的な知識や技術について研修を深めました。本号では、研修の各プログラムのポイントを御紹介します。

＜基調講義＞

学び：自分と世界をつくり出す運動～地域に必要なコーディネーターのあり方～
 東京大学大学院教育学研究科教授 牧野 篤 氏

- ・将来、これまでの知識が不要になる可能性が出てきた。子供たちに体験的に学ばせ、豊かで自分の生き方を考える学びを支えていくことが必要。新しい価値を多様につくっていくことや自分たちの価値が実現する社会、自分が役立っているという意識が求められる。
- ・今後、社会教育が核となって色々な機関と連携
- ・楽しそうな文化があるかどうか。若者が新しい文化を創って若者を引きつける循環
- ・小さな具体的な社会をたくさんつくる
- ・自分が社会の一員として役立っているということを学ぶ
 →地域との連携
- ・学校と地域が対等に緩いつながりをもつ（関心を持ち合う）
- ・お互いに関心を持つ人を増やしていく＝関心人口
- ・新しい自分をつくる

社会教育主事

- ・指導・助言を与える
- ・寄り添っていきながら対話を促していく
- ・学びを組成していく専門性
- ・中に入り込む専門性



＜事例研究＞

- ◇事例1 生徒の学びが地域に生きる～三笠高等学校地域連携部の取組～
 北海道三笠高等学校教諭 熊谷 綾真 氏
- ◇事例2 地域の子どもは地域で育てる～通学合宿での住民の合意づくり～
 恵庭市教育委員会社会教育課主査 吉野 裕太 氏
 助言：東京大学大学院教育学研究科教授 牧野 篤 氏

三笠高等学校：地域連携部の取組

子どもたちが地域に抵抗なく関わることができる人間力

- ポイント① 食物調理科という特性を生かすため生産者の仕事を知る
 （農家の手伝い/収穫祭/地域の農業など）
- ポイント② 異なる年代との交流を通して、コミュニケーション能力を育む
 （児童と高齢者との関わり/お菓子教室の実施/高齢者施設での活動/神社祭でのボランティアなど）

学びを実践に生かせる機会（コミュニケーションの取り方）を得た

助言者から

●三笠高等学校の事例

- ・地元に残す意識が明確
- ・地域全体を学校化している
- ・地域が子どもたちを大事に育てている
- ・魅力ある形に変えていく
- ・地元と連携し地域に根ざしていくものになっていくと良い



恵庭市：通学合宿の取組

地域の子どもは地域で育てる意識の醸成

- ①子どもに対してのねらい
- ・自立心・協調性・我慢する力・感謝の心
- ②大人に対してのねらい
- ・地域の教育ネットワークの形成
 - ・地域の大人が今の子どもたちに目を向ける（実情を知る）
 - ・大人同士が交流を深めながらつながっていく

住民から住民に投げかける学び合いが深まった

●恵庭市の事例

- ・地域の大人に大事にされたという経験が残っていく
- ・こうした取組への関心人口を増やしていくと魅力あるまちづくりにつながる
- ・15歳までに手厚い配慮→40歳以上 地域に戻る確率が高く、地域のための意識が高い
- ・仕事をつくりたい、志を果たしたいという気持ちも育む

<ワークショップ>

住民が盛り上がる熟議のデザイン

進行：東京大学大学院教育学研究科教授 牧野 篤 氏

KJ法 自分のまちの「ピカイチ（素晴らしい）」と「いまいち」の紹介

- ①自分のまちの「ピカイチ」と「いまいち」を紹介し、出されたものを一つのテーマでグルーピング
- ②グルーピングしたものを更に大きなテーマでグルーピング
- ③グルーピングしたものをつなぎ合わせて一つのストーリーを作る

ワールドカフェ 「ピカイチ（素晴らしい）」を参考に「いまいち」をどうするか

- ①店主（マスターor ママ）を決めて、自分の意見を話ながら手元（模造紙）に書いていく。
- ②店主を残してグループの他のメンバーは空いている違う店（グループ）に移動
- ③店主は、自分たちのグループで討議したことを説明し訪れた人から意見をもらい模造紙に書いていく
- ④最終的に店主は、元のメンバーに他のグループのメンバーからももらった意見を説明し再度、討議を行う

「ピカイチ」を生かして「いまいち」を解決する事業をGで考える

A「あつまるカフェ」

：住民主体の子どもを核とした小さなコミュニティを作り、地域の新たなつながりの創出や異世代間交流を図る。

B「教えて先生～まちの中に先生をつくる～意外にいない いるかも」

：住民が自分の知識や技能を生かして、地域の課題や住民のニーズに応えるために講師や指導者を担う

C「いろんなニーズを発掘しよう」

：住民が地域の人や「こと」を知るため、まちの色々なニーズを発掘していく

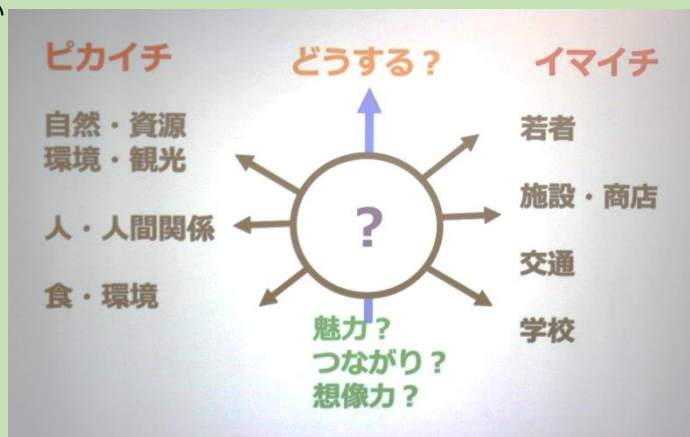
D「誰もが主役～子どもを核とした地域密着イベント～」

：ハードルが低く参加しやすいお祭りなど、子どもが提案したものを大人が実現していき、地域の多世代間交流を図る



デザインのポイント

- ・WSは居合わせた人々が関係を結び共にいる関係づくり
- ・KJ法は項目ごとに整理＝最大公約数的なものを取り出し互いに尊重し合う
- ・抽象化による本質の可視化＝異なる地域の共通項
- ・ワールドカフェは外部の視点の導入
- ・人の普遍性への信頼→なぜ、それが可能となるのか
- ・想像力＝相手を慮ること
- ・自分に即して相手の立場に立つ
- ・全ての意見に自分の意見が入っている
- ・参加者全員が当事者になる
- ・コーディネーターも当事者になる



● 本研修会事業報告書について ●

「生涯学習ほっかいどう」トップページの「生涯学習推進センター情報」(<https://manabi.pref.hokkaido.jp/>)並びに「平成28年度主催講座一覧」(<https://manabi.pref.hokkaido.jp/center/works/course>)に掲載していますので、本研修会だよりとあわせて御覧ください。また、本研修講座の内容や資料についてのお問い合わせは、道立生涯学習推進センター ☎ 011-231-4111 (内線 36-329) まで御連絡ください。

◎研修のご案内◎

地域生涯学習活動実践交流セミナー 2月16日(木)～17日(金) かでの2・7

本道における生涯学習活動の一層の推進を図るため、実践事例の交流等を通し、北海道における生涯学習推進上の課題解決を図ります。